

地域を基盤とした福祉教育事例

～ 福祉教育推進事業実践報告 ～



社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会
宮崎県ボランティアセンター

平成 30 年 3 月

は じ め に

今日、生活困窮や孤立化、虐待問題など地域住民が直面する様々な生活課題が見られる中、地域のつながりをはじめ、公的な支援を行う関係機関・事業所・NPO・ボランティアなどが連携・協働する体制を構築し、生活課題に対して一体となって取り組む等、地域福祉の推進が求められています。

地域福祉やボランティア活動を推進する中で、福祉教育には、子どもの健全な育成を図るという目的に加えて、地域社会形成の主体である住民一人ひとりが「自分たちの地域がどのような課題を抱えているかを学び」、「それらの課題に対応するための解決策を計画し」、「それを実行するための機会を得る」という重要な役割があります。

また福祉教育は、「最終目的は担い手の育成であること（地域の主体である住民が自らの手で活動を行うこと、及びその人材を育成すること）」という視点を持って進めていくことが大変重要です。

そこで本会では、「だれもが安心して暮らせるまちづくり」を実現するために福祉教育にも力を入れており、子どもから大人までの地域住民すべてを対象とした福祉教育推進事業を推進しています。

この取組は、地域をフィールドに地域住民一人ひとりが学びを通して地域の生活課題等に気づき、その解決に向けて地域福祉・ボランティア活動へつなげていくことを目指しています。つまり、地域の生活課題を一つの教材として、学ぶプロセスを通して住民一人ひとりが市民活動の担い手であることを自覚するとともに、地域の福祉力や教育力等を向上させるものです。

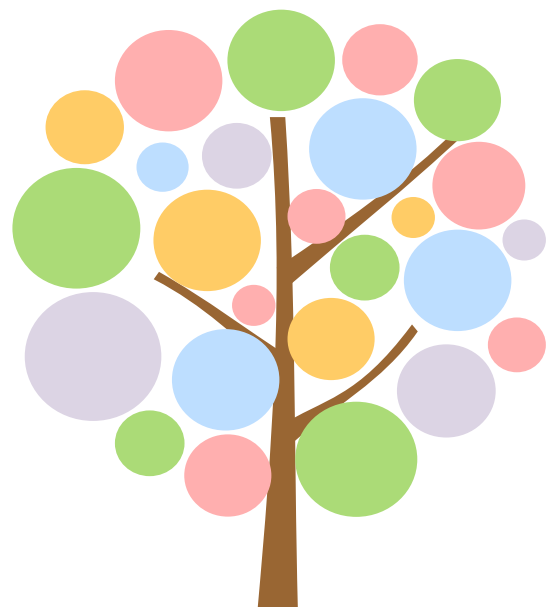
このたび、本会で平成28年度から平成29年度までモデル事業として実施した実践事例を「地域を基盤とした福祉教育事例～福祉教育推進事業～」としてまとめました。今後、学校や社協、地域での福祉教育推進の参考にしていただければ幸いです。

平成30年3月

社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
会 長 佐 藤 勇 夫



1	知ってほしい「福祉」のこと、「福祉教育」のこと。	1
2	高鍋町における福祉教育の実践	3
	STAGE 1 学校に福祉教育を届けよう	4
	STAGE 2 地域に向けて福祉を発信しよう	6
	STAGE 3 福祉教育を通じた地域づくりへ	8
3	実践の解説とポイント	10



知ってほしい「福祉」のこと、「福祉教育」のこと。

お尋ねします。

Q1 「福祉」ってどんなことだと思いますか？

Q2 「福祉教育」と聞いてどんなことを連想しますか？

学校で、子どもさん達に尋ねた時、逆に子どもさん達から尋ねられた時、多くの方はこう答えるのではないのでしょうか？

A1 「高齢者や障がいのある人、何か困っている人を助けること」

A2 「車椅子」や「アイマスク」体験、施設に行ってお手伝いをする。

どちらも間違っていないかもしれません。むしろ大事なことです。

しかし、私たちがお伝えしたい「福祉」や「福祉教育」には、**もっともっと広い意味**が込められています。

私たちはこう答えます。

A1 福祉（ふくし）は、ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ**

福祉は、困った人のための特別なものではなく、自分たちにとっても大切なもの。

毎日の暮らしの中で、いろんな人と関わりながら、助けたり、助けられたり。

自分たちの暮らしている地域が、誰にとっても住みやすい地域になるように、みんなで考えていく。

そのことこそが「福祉」なのです。

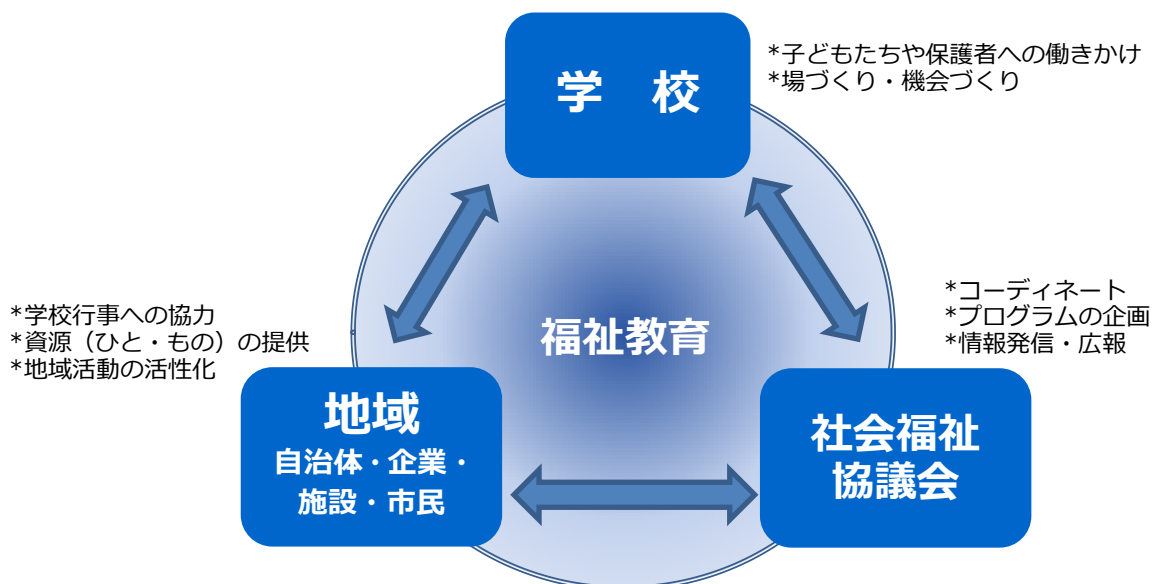
A2 「他人事＝ひとごと」を「自分事＝わがごと」に変える福祉教育

自分たちの暮らしている地域が、誰にとっても住みやすい地域になるように。

子ども、高齢者、障がい者、全ての人々がそれぞれ役割を持ち、支えあいながら、助け合いながら暮らせる地域－それは、他人が作ってくれるわけではなく、自分たちで作り上げていく必要があります。

そのことを、子どものころから意識し、将来一人の「地域人」となっていくための土台作りをすることが「福祉教育」だと考えます。

ですので、私たちの考える「福祉教育」には、地域の皆さんの力が必要なのです。



私たちが考える「福祉教育」が「地域づくり」に繋がっていることをイメージして、今回取組まれた“福祉教育推進事業”を読んでみてください。

〔STAGE 1〕



★学校に福祉教育を届けよう

～学校と手をつなぐ第一歩～

2016

福祉体験

【ねらい】・疑似体験を通じた当事者理解

中 3

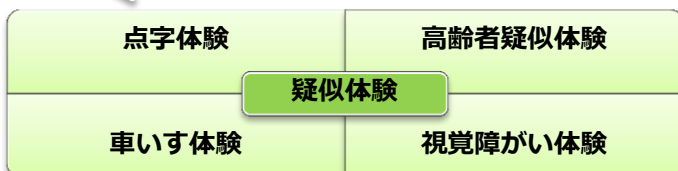


<5月>車いす体験

◆高鍋東中学校より福祉体験の依頼

気合いを入れて

あらゆる体験を実施



結果…

「福祉って何か大変」っていうイメージを植え付けたのでは…?!



体験してみて
どうでしたか？



福祉って学ぶことが
たくさん！
何だか大変そう・・・

目が見えなかったり、
歩けなかったりするこ
とは大変なこと。
ちゃんと、助けられる
ようにしたい。

学校と話し合える 場づくり

【ねらい】・学校と社協の繋がりを作る。

◆町内4つの小中学校と
福祉教育事業の連携がで
きるよう、各学校長と話し
合いの場を設ける。

結果

学校との繋がり

+

福祉教育の理解



福祉のことは社協に聞け
ばいいんですね・・・

【わたしたちの想い】は、かなったのか？2016 <50点>

とりあえず、学校と繋がることを第一の目的として取り組んだ1年目。
努力はしたけど、一つの係りだけで考えるには、人も少ないし大変だった。

【わたしたちの想い】 まずは、学校と繋がるきっかけを！

2017

【ねらい】・疑似体験を通した当事者理解
+POINT・当事者交流により実践

◆町内の小・中学校4校より依頼

学校から求められるままに

あらゆる体験を実施

点字体験

高齢者疑似
体験

車いす体験

視覚障がい
体験

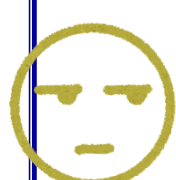
当事者交流

手話体験

ボッチャ
体験

当事者等の
講話

結果…

当事者交流により
一歩前進。
でも、まだまだ…。


体験してみて

どうでしたか？



お年寄りの気持ちを
考えるいい体験に
なった！

実際に障がいのある
方のお話を聞けて、
とても良かったです。

認知症サポーター
養成講座

【ねらい】・各学校に認知症について
学びを届ける。

◆町内の小・中学校、高校にて開催
3つのプログラムで実施

講話

+

認知症劇

+

グループ
ワーク

結果

学校に認知症の学びを
届けるという目的は達成！
後は、年齢別の学びが
あれば…。


【わたしたちの想い】 は、かなったのか？ 2017 <75点>

町内の小中学校に福祉教育を届けることはできた。一部の業務負担解消のためにも、社協職員で「委員会」を結成。学校に福祉教育を届けるためのプログラムについてみんなで意見を出し合うことになった。

⇒ STAGE 3へつづく…

〔STAGE 2〕

★地域に向けて福祉を発信しよう ～理解啓発をすすめる～

2016

講演会 & 映画上映会

【ねらい】 ・地域福祉の意識付け
・住民向けの理解啓発

◆地域向け講演会

【講演】 9月10日 13:00～14:40

「希望の^{あかり}燈を子どもたちへ
～福祉教育をととした共生社会の街づくり～」

【講師】

社会活動家 ゆ あさ まこと
湯 浅 誠 氏



講演会では、湯浅先生の実体験（障がい者の兄がいること）を通して、映画の内容につながるお話をしてくださいました。

講演会の感想をお聞かせください。



改めて、高鍋を良くしていこうと思いました。
素晴らしい講演をありがとうございました。

“想像力”と“創造性”の言葉を忘れず、社会の中で暮らしていきたいと思いました。

◆映画上映会

【映画】みんなの学校（2014年） 9月10日 15:00～16:50



不登校ゼロを目指す大阪市の小学校が発達障害を抱えた子、自分の気持ちをうまくコントロールできない子など、いわゆる特別支援の対象となる児童も同じ教室で学ぶことで、教職員、保護者、地域の大人たちだけでなく、子ども同士も一緒に学び、「みんながつくる、みんなの学校」に取り組むドキュメンタリー。

映画はいかがでしたか？



ありのままを受け入れる。そして、みんなで作って、生きていくことの大切さを見せていただきました。

自分を振り返り、反省したり、後悔したり。
何度も涙が出ました。

講演や映画を通して、“共生社会”に向けての一步を踏み出す！



【わたしたちの想い】は、かなったのか？2016 <70点>

大きなイベントはインパクトがあり、広く周知するには良かったと思うが、今後はより身近な地域のこととして理解してもらえよう、地域活動へとつなげていくことが求められると感じた。

【わたしたちの想い】

少しでもたくさんの人に
福祉を知ってもらいたい！

2017

こども食堂 セミナー&イベント

【ねらい】・こども食堂を通じた地域での
コミュニティづくりのモデルを示す。

◆地域向けセミナー

【講演】 8月10日 15:00~16:40

「こどもの未来を拓くみんなの場所
～こども食堂プロジェクト～」

【講師】

一般社団法人 日本プレミアム能力開発協会
代表理事 富井真紀氏



富井氏自身が、幼少期貧困世帯で育ち、父からのネグレクトや心理的虐待を受けた実体験を交えながら、子どもの貧困の実態について話をされました。

◆出張！こども食堂 in たかなべ

【場所】「ぐらんま茶寮 ザ・キッチン」

8月10日 11:00~13:00



食材は地域の方々から寄付していただきました。
打合せから当日の運営まで、多くの方々がボラン
ティアとして関わってくださいました。
県内の他のこども食堂の方もお手伝いに！
交流スペースでは読み聞かせや折り紙も実施しました。



こども食堂
どうでしたか？



学校での食事は
時間も決まって
いて自由に話せ
ない時もある。
皆と話しなが
ら食べて楽しかった。

友達と食事できて
楽しかった。
またこんな機会が
あるといいです！
読み聞かせも楽し
かった。



私たちは共働きなので、子どもた
ちだけで食事できる場所ができた
ら、とても有り難いです。
友達を増やせるいい機会にもなる
と思います。

【わたしたちの想い】は、かなったのか？2017 <80点>

こども食堂のイベントとセミナー開催に向けて、地域の方を巻き込んだ打合せ会議を計4回開催。協力
者の中からコミュニティづくりを手掛けてもらえるよう働きかけた。 ⇒ STAGE 3へつづく...

〔STAGE 3〕



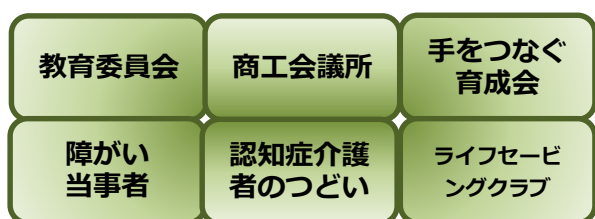
★福祉教育を通じた地域づくりへ

2016

福祉教育研究会

【ねらい】・継続的に福祉教育が行えるよう
福祉教育についての調査研究等を行う。

◆研究会委員を委嘱



色々と試してみるものの、
社協、研究会委員とも何か
ら始めればいいのか、なか
なか見えず・・・。



そんなとき
新たな出会いが・・・



認知症シンポジウム

【ねらい】・毎年行っているシンポジウムを
子ども達にもより身近な取組みにする。

平成 25 年度から実施している「高鍋町認知症シンポジウム」。認知症川柳を募集し、入選作品を「のぼり」にして町内に掲示することで広報啓発を行ったり、著名な先生をお呼びしての「講演」を行ったり。

でも、もっと子どもたちも参加できるようなものしたいという思いがつのる・・・。



基調講演



認知症川柳

【わたしたちの想い】は、かなったのか？2016 <40点>

福祉教育研究会では、社協側の想いが先行しすぎて、ポイントが絞りきれなかった感じ。でも、この反省が社協全体の意識改革につながった気がする。

【わたしたちの想い】

地域で力になってくれる
「仲間」を増やしたい

2017



校区コーディネーター（2名）
東西に分かれる校区に1名ずつ配置。
各小・中学校と地域をつなぎ、福祉教育、
社会教育を推進する役割

◆福祉教育の相談も可能に

STAGE 1 から



福祉教育委員会

【ねらい】・福祉教育に関する事業を
チームとして考える。

◆社協内で取組みを共有化
◆多彩なプログラムが計画可能に

STAGE 2 から



地域コミュニティ スタートアップ事業

【ねらい】・地域の人が集える「居場所づくり」
を行うために、「こども食堂」等の
コミュニティづくりに取り組んで
くれる団体・個人を発掘する。



団体A
こども食堂には興味があった。
取り組みたいと思っていたので良
い機会になりました。

◆こども食堂が地域の方々の居場所へ

座 認知症劇団「はにわ こども食堂」



シンポジウム
はどうでしたか？

◆地域の実践報告も交えて
◆サポーター養成講座とW効果に

子どもにもわかりやす
い内容で素晴らしかつ
たです。
面白くわかりやすく、
認知症の人の行動、家
族の気持ち、態度の理
由が理解できました。
相談するところも多く
あるのがわかりました。

認知症を良く知って、
自分のこととして考え
ていきたい。
高鍋町が認知症に優し
い街になるために、町
民の10%以上がオレン
ジリング所有になるよう
養成講座がんばって！

【わたしたちの想い】は、かなったのか？2017 <70点>

2年間の取り組みを通して、多くの人と出会うことができた。また今後は福祉教育研究会と社協内の委員会とで連携することが必要だと感じている。まいた種に、水をやり光をあて、それぞれの事業を大切に育てていきたい。

実践の解説とポイント ～実践のバックステージを県社協が解説！～

今回の高鍋町での福祉教育推進事業においては、大きく3つのステージを作り、それぞれ「届ける」、「広げる」、「つくる」をコンセプトに進められています。

【STAGE 1】

まず、第一のステージ「届ける」は、「学校に福祉教育を届けよう」をテーマに掲げ、従来から行っている福祉教育をもっと多くの学校に、もっと多くの学年に、との思いをもって取組まれています。

その中で、思いの強さから社協側が空回りしてしまったり、学校との意思の疎通がうまくいかなかったり、葛藤した場面も少なからずあったことが伺えます。

その一方で、町内にある4つの小・中学校の校長先生と話し合いの場を設けることに成功しています。「福祉教育への理解」や「学校との繋がり」が生まれただけでなく、福祉のことは社協に聞けばいいんだな・・・という認識が学校側に生まれたことにより、2年目には念願だった、全ての小・中学校で福祉体験を実施することができました。更に、それまで地域で行っていた「認知症サポーター養成講座」を、学校において実施できるところまで展開しています。【STAGE 1】で芽生えたこの「繋がり」と、もっと福祉教育をきちんと「届けたい」という葛藤が、また次の展開を生んでいきます。

【STAGE 2】

第二のステージ「広げる」は、また別の視点からの展開を見せています。

テーマは、福祉への理解啓発のために「地域に向けて福祉を発信しよう」。

1年目には「講演会&映画上映会」を、2年目には「こども食堂のセミナー&イベント」を実施し、子どもだけでなく、多くの地域の人向けにイベントを企画しました。

このイベントを2年連続で行ったのには、大きな目的があったようです。もちろん「福祉」に対して身近に触れる機会を作りたいということもありましたが、「こども食堂」という場を、子どもを軸とした「地域共生社会」実現のための、地域におけるみんなの居場所＝コミュニティにしたい、というねらいがあったのです。

「こども食堂」は子どもの貧困を解決できる方策として、今、全国にどんどん広がっています。高鍋町においても、平成27年に女性の離婚率が県内1位となり、町内の低所得世帯の63%がひとり親世帯であるという調査に裏付けられるとおり、子どもの貧困は重要な課題となっていました。しかし、この問題をなかなか顕在化することは難しく、県内の「こども食堂」もそれらの子どもを含め、誰もが立ち寄って食事ができる「居場所」となっているパターンが多くなっているのですが、高鍋町では逆にこの点を利用しようと考えたのです。

2年目に実施した「出張！こども食堂 in たかなべ」は、食材の提供、開催へ向けての準備、当日の運営等、多くのボランティアさんが関わってくださり、また当日は多くの親子連れを含む参加者が集まって大成功で終了しました。しかし、本当の目的は、この次の第三のステージに続いていきます。

【STAGE 3】

第三のステージ「**つくる**」では、2つのつくりたいものがありました。

1つは、コミュニティを「**つくる**」。もう1つは、これからの福祉教育を進めていくための仲間を「**つくる**」。

高鍋町では福祉教育推進事業を進めていくため、まず最初に「福祉教育研究会」という組織を立ち上げました。メンバーには教育委員会・商工会議所・福祉団体・当事者団体・ボランティア等、社協が縁を結びたいと思った方々をお願いしました。

しかし、この研究会は思うような成果をあげてはくれなかったようです。原因は一つではないと思いますが、社協側の思いや理想だけが宙に浮いた状態になり、そこへ到達するための手段や方法を具体的に思い描くことが出来なかった・・・という表現が一番近いのではないのでしょうか。

そんな時、「運命の出会い」が訪れます！「校区コーディネーター」との出会いです。

「校区コーディネーター」は、学校と地域とを繋ぎ、学校側・地域側両方の声を聞くことのできる存在だと言えます。学校だけでは大変な社会教育、キャリア教育、福祉教育等を推進するため、地域に働きかける役割も担います。高鍋町では町内2つの校区にそれぞれ1名が配置されています。

この「校区コーディネーター」との出会いは、今後の福祉教育を推進していく上で、とても重要なものとなり、大切な仲間を「**つくる**」ことが出来た、と言えるのではないのでしょうか。

一方、第一のステージで生まれていた葛藤は、社協内にも大きな波を起こすことになりました。社協内で福祉教育のプログラムを共に考える「福祉教育委員会」が立ち上がったのです。「チーム・福祉教育」としての仲間を「**つくる**」ことに成功し、次は、ここで考えられた福祉教育推進の手段や方法を、「福祉教育研究会」へ提案して意見をいただくなど、両輪として進んでいくことが可能となります。

そして、第二のステージで成功したイベントの最終目的「こども食堂」を通したコミュニティを「**つくる**」。

果たして、地域でこのことを実践してくれる仲間を「**つくる**」ことは出来たのか？！

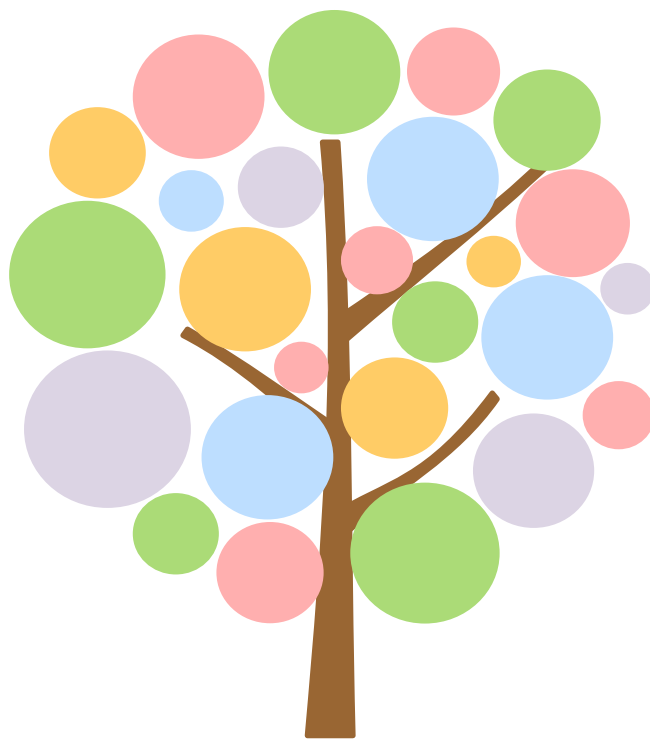
地域への丁寧な働きかけが実を結び、幾つかの団体が手をあげてくれました。来年度からの本格的指導に向けて、既に準備は始まっています。

認知症劇団“はにわ座”も結成され、仲間を「つくる」土台は固められつつあります。

「福祉教育を通した地域づくりへ」—。

本格的な事業推進へ向けての第四のステージの開幕は、すぐそこまで迫っています。





社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 / 宮崎県ボランティアセンター
〒880-8515 宮崎市原町 2-22 宮崎県福祉総合センター本館 1 階
TEL 0985-25-0539 FAX 0985-31-6575
<https://www.bura-vola.org/> <2018.4.1「ぶーら・ボ〜ラ」リニューアル>
Facebook <https://www.facebook.com/miyazakiken.volunteercenter/>